

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	カトマンズにおける児童労働の予防及び削減のための環境が改善する
(2) 事業内容	カトマンズ盆地内にある3つの市、カトマンズ、ラリトプール、キルティプールの行政の能力強化を目指した活動および、雇用主側、一般市民への啓発活動を通じて、小規模レストラン、茶店における児童労働削減を目指した事業を、2011年11月よりN連事業として実施している。本年次の具体的な活動は、以下のとおり進んでいる。 1. 児童保護委員会（CPC）による児童労働モニタリング活動の実施とソフト支援 カトマンズ市では、書面による事業協定書（MOU）が2013年2月27日付（事業実施期間外）で締結されたのを受け、CPCの初会合が3月31日に開催された。CPCでの話し合いを経て、5月、ワード（区）単位のCPC（WCPC）を結成するに至った。6月には市のCPCによるWCPCオリエンテーション会合が開かれた。今後、WCPCが市のCPCと連携しながら、きめ細かなモニタリングが実施されるようになることが期待される。 3市に設置されたCPCが児童労働のモニタリングを継続して行われるよう、市役所およびCPCの活動を支援する活動としては、CPCの月次会議の実施を支援した。ラリトプール市では、モニタリングガイドラインの策定も実施中である。 2. 雇用主、一般市民を対象とした啓発キャンペーン 3月28日～4月3日に開催されたラリトプール祭りにブースを出展し、チャイルド・ヘルプ・ライン及び児童労働に関する展示と説明を行った。 一方、キルティプールでは、CPCによる児童労働防止啓発キャンペーンへの支援を行った。 また、6月12日の児童労働世界反対デーに際し、労働省と連携して児童労働法強化のための交流プログラムを開催した。反対デー当日のイベントにも参加し、ネパール政府主席事務官が音頭をとった集会にも参加した。 3. 緊急救援 ネパール政府からの委託で運営しているチャイルド・ヘルプ・ラインに救出要請があり、2月にレストランで働く子ども2名を保護した。これは、行政がレストランで働く子どもを救出した初めてのケースとなった。両名とも、その後、両親の元へ戻した。

(3) 達成された効果	1. CPC による児童労働モニタリング活動 カトマンズ市では、定期的なモニタリング活動へ向けて、その基盤となる WGPC が設立された。 カトマンズ市に先行して市の CPC が設立されたラリトプール市及びキルティプール市では、数回のモニタリングを実施していく中で、レストランで働く子どもの雇用主に対する啓発テクニックのスキルがモニタリングの際に重要であるという気づきがあった。両 CPC の気づきは効果的なモニタリング活動のためカトマンズ市の CPC 及び WGPC にも共有されている。 ラリトプール市では CPC の発案で、市社会福祉局を巻き込み、市全域の小規模レストランにおける児童労働の実態調査及びデータベース化を行うことが決定し、現在調査を実施中である。CPC 単独ではなく、市役所を巻き込んだ活動に発展したことは、非常に意義深い。 キルティプール市では、定期的な巡回モニタリング活動を実施する計画が CPC で合意された。 2. 雇用主、一般市民を対象とした啓発キャンペーン 上述のラリトプール祭りでは、毎日 3,000 人がブースを訪れ、啓発教材に接した。 また、広く市民に向けた児童労働削減啓発として、新聞とテレビに意見広告も掲出した。新聞に関してはカトマンズ盆地内の地方紙に、テレビ広告もプロジェクト対象地域ではネワール民族が多く居住することからネワール語専門チャンネルを使用して実施した。 上記のような活動から児童労働を目撃した等の一般市民からのチャイルド・ヘルプ・ラインへの通報が増えてきていることが同キャンペーンの効果として考えられる。また広く一般市民がこの問題を内在化していくプロセスにあるようにも感じられる。 3. 緊急救援 既述のとおり、救出した 2 名の子どもへの支援を行い、両親の元へ戻した。この際、救出した 2 名の子どもが地元に戻っても安全かつ健全な生活が望めるかを考慮し、子どもの家族と近隣住民への説明、啓発及び学校への協力監督要請へ行った後、子どもを両親のもとに戻した。
(4) 今後の見通し	CPC による児童労働モニタリング活動は、全ての市で体制が整いつつあり、今後も継続して、定期的かつ効果的なモニタリング活動の実施へ向けて支援していく。 雇用主、一般市民を対象とした啓発キャンペーン、及び、緊急救援も、引き続き継続して実施していく。なお、実際に子どもを救出及び支援する活動には困難な局面が多く、その方法等につき、今後改善の余地が残されている。